

令和3年度 事業報告

第1 事業に関する事項

1 豆類をめぐる諸情勢

(1) 主産地北海道における豆類の生産

北海道での令和3年産作付指標面積は小豆 22,100ha、豆類合計（大豆を除く。以下同じ。）29,281ha に設定された。これに対して、小豆の作付面積（農林水産省公表）は 19,000ha（前年比 3,100ha 減）、金時は 4,880ha（同 100ha 増）、手亡は 1,500ha（同 280ha 減）となった。

令和3年産の播種作業は、5月下旬の断続的な降雨の影響により、小豆はやや遅れたものの、金時については平年並みに終了した。

小豆、金時の生育状況は、6月の好天により生育が進み、7月1日時点では草丈は小豆で長く、金時で平年並み、葉数は小豆、金時ともに多かった。8月1日時点では、一部の地域で高温・少雨の影響により、小豆の開花の遅れや落花が見られたものの、小豆、金時とも生育は平年並みに進み、開花も平年並みとなった。その後も生育は平年並みに進んだが、高温・少雨の影響により、9月1日時点では小豆は着莢数が著しく少ないほ場も見られた。10月に入っても小豆、金時ともに生育は平年並みに進み、収穫作業が始まった。小豆の着莢数については地域やほ場間差が見られることとなり、葉落ちが悪く収穫作業が停滞した地域もあった。一方、金時の収穫作業は平年並みに終了した。

令和3年産の収穫状況は、農林水産省統計によると、小豆は、10a 当たり収量は 206kg で前年を 6% 下回り、収穫量は 39,100 トンで前年より 9,500 トン(20%)減少した。しかし、現地からはこの統計では集計されない等級外の収穫量がかなりあったことが報告されている。

また、金時は、10a 当たり収量 76kg（前年比 23%増）、収穫量は 3,670 トン(同 24%増)となった。手亡は、10a 当たり収量 193kg（同 147%増）、収穫量は 2,900 トン(同 109%増)となった。

この結果、豆類(小豆、いんげん等)合計の収穫量は 45,960 トンで前年より 7,320 トン(14%)減少した。

なお、令和4年産の作付指標面積は、小豆は 22,100ha(前年同)、豆類(小豆、いんげん等)合計で 29,317ha(前年比 36ha 増)に設定された。

北海道における豆類の生産状況

(単位：ha、kg/10a、t)

区 分	作付面積			単収		収 穫 量			作付指標面積(注)	
	2年	3年	増減	2年	3年	2年	3年	増減	3年	4年
小 豆	22,100	19,000	△3,100	220	206	48,600	39,100	△9,500	22,100	22,100
いんげん等	6,880	6,660	△220	68	103	4,680	6,860	2,180	7,181	7,217
うち金時	4,780	4,830	50	62	76	2,960	3,670	710	-	-
うち手亡	1,780	1,500	△280	78	193	1,390	2,900	1510	-	-
豆類(小豆、いんげん等)合計	28,980	25,660	△3,320			53,280	45,960	△7,320	29,281	29,317
大 豆	38,900	42,000	3,100	239		93,000			36,105	36,500
合計	67,880	67,660	△220	-	-	146,280			65,386	65,817

資料：農林水産省統計部「豆類（乾燥子実）及びそばの収穫量」等による。

(注) 作付指標面積の雑豆合計には、えんどうを含む。

(2) 豆類の輸入状況

令和3年度(4月～3月)の豆類の輸入状況は、小豆 23.7千トン(前年度比 105%)、いんげん 25.5千トン(同 100%)、えんどう 15.2千トン(同 81%)、そら豆 3.2千トン(同 111%)となっている。

豆類の輸入量の推移(会計年度)

(単位：トン)

	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
小豆	22,371	25,449	29,705	22,546	23,689
いんげん	31,069	31,219	32,199	25,486	25,485
えんどう	16,534	17,839	15,873	18,781	15,189
そら豆	4,834	4,675	4,290	2,905	3,224

(注) 「いんげん」には、ささげ属等その他の豆、ささげ、き豆、竹小豆、その他を含む

資料：財務省貿易統計

(3) 豆類消費

輸入物を含めた雑豆(小豆、いんげん、えんどう、そらまめの乾燥豆)の令和3豆年度(令和2年10月～令和3年9月)の消費実績は、前豆年度を1.3千トン下回る128.1千トンとなった。この内訳は、小豆71.1千トン(3.2%増)、いんげん38.5千トン(0.3%減)、えんどう14.9千トン(17.2%減)、そらまめ3.7千トン(7.5%減)となった。

また、加糖餡の輸入量は、近年減少傾向にあり、令和3年度には前年比84.6%の48.4千トンとなった。

(4) 豆類の価格動向

北海道産小豆の価格は、新型コロナウイルスの影響による需要減退の影響もあって、令和2年11月から令和3年10月まで26千円で推移していたが、令和3年11月以降少し上昇し、令和4年2月には27千円台となった。

一方、輸入小豆の価格は、令和2年4月から10月までは、中国産（天津）、カナダ産ともに15千円～16千円台で推移してきたが、令和2年11月以降は上昇を続け令和4年2月には21千円台となった。

また、バタービーンズの価格は、新型コロナウイルスの影響による白餡需要の減退から令和2年4月以降6千円を下回って推移していたが、令和3年8月からは上昇に転じて令和3年11月以降は8千円台で推移している。

豆類の価格の推移（東京仲間相場）

（単位：円/60kg）

	R3年8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月
小豆	26,000	26,000	26,000	26,225	26,500	26,618	27,000	27,045
（前年同月）	34,647	33,000	28,318	26,000	26,000	26,000	26,000	26,000
大正金時	38,000	38,000	38,000	38,000	38,000	38,000	38,000	38,000
（前年同月）	38,000	38,000	38,000	38,000	38,000	38,000	38,000	38,000
輸入小豆(天津)	19,967	20,000	20,000	20,165	20,356	20,917	21,300	21,300
（前年同月）	16,000	16,585	16,964	17,000	17,226	17,556	17,739	17,826
輸入小豆(カナダ)	19,750	20,465	20,500	20,500	20,500	20,817	21,000	21,123
（前年同月）	16,000	16,195	16,618	17,000	17,000	17,056	17,239	17,326
バタービーン(ミャンマー)	6,383	7,080	7,433	8,000	8,500	8,750	8,800	8,800
（前年同月）	4,441	4,300	4,255	5,032	5,737	5,700	5,561	5,652

（注）国産は東京深川倉庫前渡し、中間2等（現物）、輸入ものは横浜渡し、一次問屋基準（現物）

2 実施した事業

当協会の事業目的に即して、良品質な国産豆の安定供給に資する豆類に関する学術の振興（公1）及び健康に良い豆についての消費啓発を通じた食育の推進（公2）を実施した。その際、業務の的確かつ効率的な運営に配慮しつつ、協会の助成事業や直轄事業により、以下の各項目に記したとおり実施した。

また、豆類振興事業に関しては、広く事業や課題を公募し、第三者で構成される審査委員会の選定結果に基づいて、令和2年度末までに、令和3年度豆類振興事業助成対象候補を選定した。

さらに、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、豆類産地懇談会、豆作り講習会等についてはWEB方式により実施する等実施方法の変更を行った。

良品質な国産豆の安定供給に資する豆類に関する学術の振興（公1）

[調査研究]

1 雑豆需要促進調査研究への助成（公募）

新たな雑豆の需要促進に資するため、大学、試験研究機関等の研究者が実施する、新需要開発、伝統豆製品の高度化、健康維持・増進、マーケティング・食文化・食育の各分野での調査研究として、次の7課題に助成した。

(1) いんげん豆の高度加工と加工適性

公益財団法人オホーツク財団 研究課長 武内純子

(2) 風味と機能性を高めた豆茶の開発

あいち産業科学技術総合センター 主任研究員 日渡美世

(3) 製餡工程における廃棄未利用資源の活用技術開発

新潟県農業総合研究所 専門研究員 本間紀之

(4) 豆類の鉄・亜鉛等の富化に資する栽培方法の検討

酪農学園大学 教授 義平大樹

(5) 豆小豆加工過程の澱粉物理化学特性解明と近赤外分析法を用いたモニタリング手法開発

三重大学 准教授 三島 隆

(6) 言伝えの効用に基づくリョクトウによる産後の糖代謝改善効果の解明

筑波大学 助教 橋口晶子

(7) 言伝えの効用に基づくリョクトウによる産後の糖代謝改善効果の解明

筑波大学 助教 橋口晶子

2 豆類事情調査

国内外において豆類の生産・流通・消費実態に関する調査研究を実施した。

国内関係では、引き続き、雑豆の栄養・機能性成分の分析とその利用動向調査を実施した。また、農業労働力不足に対処して豆類生産の省力化に資するため、新しい省力化技術の雑豆生産への適用可能性調査事業を引き続き実施した。さらに、豆類品質・安全性確保のために、海外から輸入される豆類の安全性を確保するため残留農薬等を調査するとともに、豆類の品質向上に資する加工技術について調査した。

新型コロナウイルス関連対策として、豆類産業への新型コロナウイルスによる影響と持続化への取組調査を引き続き実施した。さらに、白餡和菓子に関する需要の動向と促進に関する調査を新たに実施した。また、豆類産地懇談会及び小豆等豆類研究・普及情報研究会についてはWEB方式に変更して開催した。

海外関係では、新型コロナウイルス感染拡大防止に万全を期して、ミャンマー及びロシアを対象とした豆類生産流通事情調査を、民間団体に委託して実施した。

[試験研究]

1 品種改良試験への助成（公募）

豆類の品種改良を促進するため、試験研究8課題に助成し、各機関で実施された。

- (1) DNA マーカーによる小豆ダイズシストセンチュウ抵抗性系統の選抜強化
地方独立行政法人北海道立総合研究機構十勝農業試験場
- (2) 道東畑作地帯における小豆コンバイン収穫適性向上のための系統選抜指針の作成
地方独立行政法人北海道立総合研究機構十勝農業試験場
- (3) 加工適性に優れる小豆品種開発のための評価指標作成および選抜強化
地方独立行政法人北海道立総合研究機構十勝農業試験場
- (4) ダイズシストセンチュウ抵抗性金時品種の開発促進
地方独立行政法人北海道立総合研究機構十勝農業試験場
- (5) DNA マーカー選抜を利用した茎疫病抵抗性小豆品種の開発強化
地方独立行政法人北海道立総合研究機構中央農業試験場
- (6) 培養変異による除草剤耐性小豆の作出と耐性遺伝資源の探索
地方独立行政法人北海道立総合研究機構中央農業試験場

- (7) 多収で加工特性に優れる早生金時品種の開発強化
地方独立行政法人北海道立総合研究機構十勝農業試験場
- (8) インゲンマメモザイクウイルス抵抗性と機械収穫適性をもつ俵型大納言小豆新品種の育成強化
京都府農林水産技術センター生物資源研究センター

2 栽培法試験への助成（公募）

豆類の栽培法の改善を図るため、試験研究3課題に助成し、各機関で実施された。

- (1) 輪作体系における丹波大納言小豆栽培での効果的な排水を可能とする機械化技術の確立
京都府農林水産技術センター農林センター
- (2) 能登大納言小豆の開花期の生育環境改善技術の確立
石川県農林総合研究センター農業試験場育種栽培研究部能登特産物栽培グループ
- (3) 上川地域に適した洋風料理向け赤いんげんまめ「きたロツソ」の栽培法開発と加工適性評価
地方独立行政法人北海道立総合研究機構上川農業試験場

3 開発試験への助成（公募）

豆類の加工、調製過程における新技術を開発するため、試験研究2課題に助成し、次の機関で実施された。

- (1) 豆類品質・品位評価判定の自動化技術開発
公益財団法人とかち財団
- (2) 小豆紫色色素の定量法確立による、品種間差と餡色発色の機構解明を目指す開発試験
国立大学法人名古屋大学

4 試験研究の推進

新型コロナウイルスの影響による小豆等の研究開発現場での労働力不足に対処するための種子選別・播種機械化実証試験を引き続き実施するとともに、新たに、産業界のニーズに対応した新品種開発を短期間で効率的に行うための革新的育種システム導入実証事業を実施した。

[技術普及事業]

1 技術普及事業への助成（公募）

豆類栽培の優良農家、集団を表彰しその成果を広く紹介する豆類経営改善共

励会の開催、作付指標面積に即して良品質豆類の計画的な安定生産を図るための豆類生産安定指導事業等の4事業に助成した。

2 技術普及事業の推進

北海道における豆類生産の安定化のため各種調査や指導を支援した。

また、北海道における豆類の安定的な生産を目的として、豆類をめぐる情勢をはじめとした話題提供や最新の栽培管理技術の情報提供により、実需者ニーズに応える豆作りを進めるため、農業者及び農業関係者を対象として開催している豆作り講習会については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、講習用テキストの配布とWEBによる動画情報の配信により実施した。

(豆作り講習の開催概要)

研修内容：小豆をめぐる現状・課題と対応方向、実需者からの道産豆類への要望、豆類の計画生産・需給状況、良質豆類の生産技術等に関する講習用テキスト配布、動画の配信

実施状況：動画は2月20日から配信。講習用テキスト配布部数 1,750部

[豆類生産対策事業]

1 豆類種子対策事業への助成（公募）

高品質の豆類生産に大きな役割を果たす優良種子の安定生産と普及を図るため、豆類原原種、原種、種子の増殖事業等の3事業に助成するとともに、北海道における豆類新品種の開発普及事業に助成した。

健康に良い豆についての消費啓発を通じた食育の推進（公2）

〔豆類消費啓発事業〕

1 豆類消費啓発事業への助成（公募）

豆類・豆類製品・豆料理に関する一般消費者の理解増進、知識啓発等を図るため、豆類関係団体が連携して実施する「豆の日」キャンペーン、主婦等を対象とした「豆！豆！料理コンテスト」（応募総数 1,116 作品）、豆料理教室（全国各地 56 教室で開催、受講者 924 名）等を行う事業をはじめ、豆類及び豆類製品の生産・流通等に関係する団体がそれぞれの専門性を生かして、豆類・豆類製品に関する講習会、調査、資料配布等を行う 9 事業に助成した。

2 豆類消費啓発事業の推進

（1）豆を使った食育の推進

学校給食における豆料理提供機会の拡大・定着を図るため、栄養教諭・学校栄養職員豆料理講習会（23 都道府県・27 箇所、受講者数 1,236 名）及び児童、父母も参加する親子豆料理教室（3 県・4 箇所、受講者数 178 名）を開催した。

豆類に関する児童の理解促進を図るため、豆を使った食育指導用の学習読本を制作し、全国の小学校のうち 8 千校及び各都道府県学校給食会に配布案内を行い、利用希望のあった小学校 1,037 校に 7 万 6 千部を配布した。併せて、同資料の効果的利用に資するため、指導者向け解説書 4 千部、食育 DVD 1 千部、豆標本セット 1 千セットを制作・配布した。

また、幼稚園児等を対象に豆を題材として制作した食育絵本「だいすき！まめエイト」及び「ありがとう！まめエイト」を 1 千 2 百園に配布するとともに、絵本を題材として制作した紙芝居を利用希望のあった 132 園、豆標本セットを 89 園、金時豆の栽培体験ができる豆栽培セットを 76 園に配布した。

（2）豆類消費啓発資料の制作・配布

食に関する指導者や一般消費者の豆類に関する知識啓発及び理解増進を図るため、豆の種類・特性、豆の健康栄養性、豆の基本的調理法、豆料理レシピ等に関する情報を掲載した各種資料を作成した。

これらの資料については、協会ホームページで紹介し、希望に応じて消費者等に配布するとともに、栄養・家政学系大学、栄養・調理専門学校、栄養士会等の食育指導団体、消費生活センター等の消費者指導啓発機関、豆類関係団体等に配布案内を行い、希望に応じて配布した（消費啓発資料の配布総数は 8 万 6 千部）。

（3）豆類消費啓発情報の提供

一般消費者に豆料理、豆の調理法、豆の栄養等に関する情報を伝達するため、

生活情報誌、栄養・料理専門誌に広告・記事を合計 6 回出稿した。

また、当協会ホームページ、ユーチューブ、フェイスブック、インスタグラムを活用して、豆製品の製造方法、豆料理レシピ、豆を原料とする餡と和菓子の情報を提供した。

(4) 豆類消費啓発イベントの推進

一般消費者の豆類に関する消費啓発及び理解増進を目的として豆類関係団体が制定した「豆の日」(10月13日)の中央イベントについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、一般消費者を集めたイベントは開催せず、人気料理研究家等が行った鼎談の内容を全国紙及び生活情報誌に掲載して広く周知した。

また、「世界マメの日」(2月10日)を契機として豆類の消費啓発を推進するため、豆類・豆類食品に関する専門家による座談会の開催し、その内容をWEBサイトにより周知した。

[情報資料の提供等]

季刊誌「豆類時報」を4回発行するとともに、協会ホームページ等を通じ豆の種類、生産流通情報、栄養、料理レシピ、研究成果等豆類に関する様々な情報を発信した。

第2 管理運営に関する事項

1 評議員会、理事会、監事監査

(1) 評議員会

- ① 定時評議員会 令和3年6月17日(木)

場 所：赤坂インターシティAIR 301

出席者：評議員9名、理事3名、監事2名

次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 令和2年度事業報告及び決算の承認について

第2号議案 監事の選任について

第3号議案 評議員の選任について

(報告事項) 三会堂ビルの建替計画について

(2) 理事会

- ① 第1回理事会 令和3年5月25日(火)

場 所：赤坂インターシティAIR 402

出席者：理事9名、監事2名

次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 令和2年度事業報告及び決算の承認について

第2号議案 令和3年度定時評議員会の開催について

(報告事項) (1) 令和3年度事業の概要について

(2) 職務の執行状況について

- ② 第2回理事会 令和3年10月28日(木)

場 所：赤坂インターシティAIR 302

出席者：理事8名、監事2名

次の事項の報告がなされた。

(報告事項) (1) 令和3年度上期事業進捗状況及び収支状況について

(2) 職務の執行状況について

- ③ 第3回理事会 令和4年3月17日(木)

場 所：赤坂インターシティAIR 302

出席者：理事7名、監事2名

次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 令和4年度事業計画及び収支予算について

第2号議案 参与の任命について

(報告事項) (1) 事務所の移転について

(2) 職務の執行状況について

(3) 監事監査 令和3年5月6日(木)

場 所：三会堂ビル4階 (公財)日本豆類協会 会議室

出席者：監事2名

令和2年度の業務の執行及び財務の処理状況について、監事による監査が実施され、いずれも正確かつ適正である旨の監査報告書が提出された。

2 役員等の異動

評議員

① 令和3年5月7日付 退任(死亡)

高橋正道

② 令和3年6月17日付 選任及び退任

(再任8名)

梶原雅仁、高尾雅之、高増雅子、塚本裕、増田重樹、藪光夫、吉田岳志、

吉田泰弘

(新任3名)

加藤淳、國井浩樹、杉原由高

(退任2名)

角田光隆、松川勲

事業報告の附属明細書について

令和3年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。